

「日本での恥ずかしい思い」

(6)組 カウンカンゾー(ミヤソマー)

人間はいろんな気持ちを感じられるものである。恥ずかしい気持ちとその中の一つである。へまり、私達はその気持ちを通してたぐさんの事が分かるたぐら。

日本に住んでいても国でのいた癖が残っている。日本に来て初めてマクドナルドで食べて終わる。た時片付けずに店を出てしま。たところがある。私の国にはセルフサービスの制度はスーパーにしかない。ファストフードの店ではお客さんが帰る。た時スタッフが片付けてくれる。スーパーでさえレジで計算するのたでに買。た物を袋に入れてくれる。それで、私は申し訳ない事をしてしま。て恥ずかしく感じた。そのような態度をもう一度しないうに気を付けようと思。た。

また、校外学習の時恥ずかしい事がある。た。その日泊ま。たホテルに温泉がある。て初めて温泉に挑戦して入るうとした。しかし、実際

にする時思。たより難しか。た。最初は大浴
場にいらほかの人と自分が違。ていて本当に
恥ずかしくて服を脱げな。た。だが、勇気
を出して服を脱りてしまるとみんなと一緒に
なり、恥ずかしくなくな。てほ。とした。お
湯に入。たら、大変気持ちがよくて、日本は
温泉に恵まれていら事を考えた。
翌日、ホテルから出発する直前に前日脱
だ靴下が部屋に残。ていらのを思い出した。
でも、鍵をもう戻したし、大切でも貴重でも
ない物なので、無視し、スタッフが捨てる
思。た。だが、次の観光地で遊んでバスに戻
。た時その靴下はもう届いていら。ホテルが
る遠い所までそんなに大切でもない物を送
てくれたことにとておび。くりした一方、恥
ずかしく思。た。日本人のお客さんを大切に
する習慣に感謝した。そして、日本にいら
も。と分かるようになった。たよりな気がした。
同じように、日本人の考え方が分からなく
て恥ずかしか。たことがあ。た。それは電車

で席をゆずることだ。国では電車やバスで優先席じゃなくてもお年寄りや体の不自由な人などに席をゆずると感謝して座らせてくれる。

それで、日本の電車の中で一人のおばあさんを見かけて席をゆずった。すると彼女はイヤそうな顔をして断った。私は驚いて先輩に聞いてみると日本人は作かの人に世話になるのをイヤがるように若い時から躰けられていた。そうだった。なるほど、私もそのことを知らなくて恥ずかしくて、彼女にも申し訳なく感じた。

日本の映画館での事だ。日本では映画が終わると帰らずにみんな座ってエンドロールを見る。それを知らなかに自分が映画が終わって帰ろうとして立。た時誰も立たなかに、たし、電気もつがなかに。恥ずかしくてすぐに座って最後までいた。その習慣はとてもいい習慣で、国にもそういう習慣があつたらと思つた。

また、日本に来て初めて国にない機械を使

の右時だ。改札口とカセルフチェックアウト
 機械とか飲み物がら切符まで様々な商品の販
 売機とかは私にと、こながなが使いにくいも
 のだ。た。そして、駅や銀行での慣れない制
 度にも迷ったことがあって泣きたいぐらい恥
 ずかしい思いをした。
 ほがにも恥ずかしかったことがたくさんあ
 ったがそれを通じて色々な事が分かった。そ
 して、日本語を使って話す時も聞き取る時も
 間違いがなくさんあって恥ずかしかったが、
 恥ずかしい思いをした分、自分の日本語の力
 も強くなると思う。このように色々な気持ち
 や経験ができるからこそ、日本に留学するの
 は有意義な事だと言えるのではないだろうか。